

令和 6 年度米子市地方創生有識者会議 議事録

[日 時] 令和 6 年 7 月 8 日 (月) 午後 2 時 0 0 分から午後 3 時 5 0 分まで

[場 所] 米子市役所 4 階 401 会議室

[出席委員] 森田委員(座長)、伊藤(理)委員、藤縄委員、岡村委員、小川委員、神戸委員、齊木委員、鹿子生委員、平田委員、深田委員、伊藤(祐)委員、西谷委員
澤田オブザーバー、田中オブザーバー、塚田オブザーバー

[欠席委員] 高増委員(副座長)、影山委員

[出席職員] 伊澤副市長、堀口 DX 推進監、長谷川教育委員会事務局長、石田文化観光局長、田仲観光課長、成田スポーツ振興課長、坂隠商工課長、宮本経済戦略課長、倉本交通政策課長、最上情報政策課長、永榮子ども政策課長、長尾子ども支援課長、松竹子ども相談課長、渡部福祉政策課長、頼田フレイル対策推進課長、相野都市創造課長、足立環境政策課長

[事務局] 中本総合政策課長、松本総合戦略室長、上場広域行政推進室長、高橋係長

以下、議事概要(注:議事進行及び資料説明は省略しています)

1 開 会

2 新任委員紹介

3 副市長あいさつ

この有識者会議は、毎年開催している。本日は、令和 5 年度の米子市まちづくりビジョンの取組状況や実績、課題等を報告させていただく。委員の皆様から様々な意見をお伺いし、より実効性のあるものに変えていきたい。

今年の基本計画の最終年度であり、総合計画審議会において見直しを行う。地方創生の取組が 10 年経った今、変わったもの、変わらないものがあるが、人口減少社会で高齢化が進む中、人不足の深刻化・情報化・国際化・災害など様々な要因に対応し、この地域に暮らす市民の幸せを持続的なものにできるよう使命感をもって役割を果たしていきたい。

4 座長・副座長選出

5 座長あいさつ

本会議は様々な分野の委員の皆様から市の取組に対して意見をいただく場である。忌憚のない活発な意見をいただきたい。

6 議 事

(1)『米子市まちづくりビジョン』(地方創生)の令和 5 年度の取組について

(米子市) 資料説明(資料 1~4)

(森田座長)【資料 1-1】今後の人口減少の推移についてどのように感じているか。

(米子市) 今後の人口推移は、社人研の人口推計(2023)と同様の動きになると想定している。様々な要因が複合的に絡み合い、人口減少が進んでいるため、総合的に取組を推進してい

たい。米子市まちづくりビジョンは令和 2 年度に計画を策定し、人口ビジョンについては、2010 年及び 2015 年の国勢調査のデータ及びトレンドを基に作成した。今後は、社人研の人口推計をベースに取組を進めていく。

（森田座長）社人研の人口推計の数値を上回るように取組を進めて欲しい。

（神戸委員）各地域間にて人の取り合いが続いているが、人がいないなりの取組も必要。DX や AI をフル活用すべき。市が生き抜くための施策を考える必要がある。

（米子市）人手不足に対しては DX を有効活用していきたい。人口の均衡については、日本国土全体の安定的な発展を考え、大きな視点をもたないといけない。東京一曲集中の現状がある一方、県、山陰といったエリアの定住人口を守る取組を地道に進めていく。

(2) 国の交付金を活用した事業の効果検証について

（米子市）資料説明（資料 5～6） 意見なし

(3) 意見交換

（斎木委員）資料 4 について、数値目標の未達成、できなかった項目については深掘りをして分析して欲しい。また、数値目標の指標が適切であるかどうか考えて欲しい。例えば、「2-2 公民館を拠点とした地域のまちづくりの推進」、「5-2 芸術文化活動の推進」の指標が、施設の年間利用者数となっているが、施設の利用者数だけではなく、まちづくりに寄与する他の指標の設定が必要ではないか。

（米子市）数値目標については、次期基本計画の策定にあたり、見直しを行いたいと考えている。

（鹿子生委員）様々な市の取組の報告があったが、日本政策金融公庫としても、事業者支援、後継者のマッチング等を通じて人材不足の問題については認識しているところ。以前、鳥取県の移住支援の相談ブースに足を運んだことがあるが、訴求パンフレットがとても魅力的だった、移住の取組については全国がライバルである。日本政策金融公庫のもつ全国のネットワークを通じて米子市の PR・支援をつなぎたいと考えている。

（平田委員）次世代を担う農業の推進については大変厳しい状況である。自然災害、肥料価格の高騰、価格転嫁が難しい現状等により、農業への諦め、後継者ができない状況に至っている。数値目標「6次産業化の新規取組」の実績がない。これについては、地元の企業と連携して取り組むことが必要。

（深田委員）人口動向については、山陰エリアなど幅広いエリアでディスカッションを行うとよい、若年女性の人口減少を注視すべき。ヘルスケアプラットフォーム、介護予防フレイル対策など、必要としている人に効果的な情報が届いているのか。DX・観光・農業など、知りたい方に情報を届ける全体的な工夫があってもよいのではないか。住んで楽しいまちの捉え方は一人ひとり異なるため、様々な取

組をしっかりと届けることが重要。

（伊藤（祐）委員）まちづくり、観光、ウォークアブル推進事業等、スピード感に欠けている。弓ヶ浜サイクリングロードについても利用者が減っている、皆生についても海側に人が歩いているか、以前よりも増えているか。すべての取組が成功するわけではないが、選択と集中が必要になってくるのではないか。

（西谷委員）若い人が東京に出てしまった後に、米子に帰ってきてもらう仕組みづくりや魅力的なPRが必要。少子化の原因を分析するとともに、増やすにはどうするのか。企業誘致やIT化が必要であり、金融機関としても協力していきたい。公共交通機関のバスについて、主要路線は走らせ、その他の路線等については、タクシー補助やサポートで対応はできないか。また、子育て支援が手厚く子育て世帯の人口増が多い、明石市などの他市の成功事例について研究が必要ではないか。

（澤田オブザーバー）市民にまちを歩いてもらうための取組として、ハード整備は進んでいるが、公共交通機関を使って街中に足を運ぶ目的となる「ナイトタイムレコード」や「地ビールフェスタ」などのソフト事業も益々重要となってくる。特に米子市公会堂（前庭含む）の積極活用を望む。米子駅南北自由通路（がいなロード）から、2027年春に完成する米子アリーナ（東山公園）に向けて歩くルートは、将来に向けたまちづくりの大事なルートになる。米子アリーナは、スポーツ機能に留まらず文化の催し会場ともなり、地域を活性化する導線の情報発信を早い段階からお願いしたい。

（田中オブザーバー）雇用について、鳥取県の求人倍率は高い状況（人材不足）である。【資料2】に雇用創出に関する記載があったが、新たな求人については、若い人の地元の定着、魅力ある雇用先の創出、働きやすい環境整備などが求められている。高校生の地元定着や持続化可能な取組など、ハローワークも市と一緒にあって取り組むとともに、働き方改革についても連携していきたいと考えている。

（塚田オブザーバー）米子市は、交通（JRの駅の数）や公共施設の設備が充実している。選択肢が多くあり、住みやすさを感じる。地域公共交通の利便性の高い地域の特色を踏まえたまちづくりを考えてほしい。西部総合事務所としても引き続き米子市と一緒に考えていく。

（神戸委員）

待機児童ゼロなど数字だけを見るのではなく、子育て世帯に対してヒアリングをして欲しい。子どもを産んだ後に、一人のこどもに教育費をしっかりとあてたいと考える方々も多数存在しており、学校以外の習い事等に市が補助をすることができないか。女性がこどもを産みやすくなる取組の1つとなると考える。

（小川委員）各委員より、人材不足の発言があったがニートが増加傾向にある。これらの状況を

市は把握しているのか。現状を把握し、人材の確保の取組につなげて欲しい。

（岡村委員）計画の数値目標に対する評価について整理された方がよい。今後の方向性がミスリードになる可能性がある。また、【資料3】「留意事項について」、現在のKPIが達成されることで、本当に市民生活の幸福に繋がっているのか。市民生活の幸福の指標を設定をしなければ、評価できないのではないか。このたびの策定の際に検討いただきたい。

（米子市）KPIのゴールは委員が考えている方向性と同じである。どこまで具現化できるか考えていきたい。

（藤縄委員）職員一人ひとりのモチベーション、やる気があってこそ総合計画が達成されると考える。幹部職員を含め、このことについては留意いただきたい。

（伊藤（理）委員）弊社も雇用について非常に苦労している。技術者、事務職ともに採用を行うが、なかなか応募者がおらず、またマネジメントを担うレベルの人材確保に苦慮している。米子駅南エリアのバス路線が限られており、駅南のこれからの展望等を発信していくと活性化につながるのではないかと。話は変わるが、以前イベントの開催企画に悩んでいる時に、どこに相談すれば良いか分からず文化観光局に連絡したところ教育委員会に確認くださる等、快く対応いただいた、この場をかりて感謝申し上げる。

（座長）いろいろなデータ等を集めて資料の説明をされているが、原因・特異点の分析が必要である。

（米子市）様々な貴重な意見感謝申し上げます。総合計画の他に、現在、個別計画が約70以上ある。総合計画は市のめざす理念を出しながら、会議の開催数等ではなく市民の満足度が分かるような数値目標をたて、策定に向けて取り組んで参りたい。

（副市長）以前は計画をつくるのが目的となっていた。PDCAのまわしかたが弱い、まだまだ不十分だと感じている。分かりやすい計画、柱がなんなのか、要点を絞っていく。また、関係者・関係団体の意見を伺い、次の策定にどう反映させるか、コミュニケーションをとっていく。議会、市民に対して丁寧に報告していく。

7 その他（特になし）

8 閉会